○ 住民説明会における意見等（江川・久津間・中里漁業協同組合）

1. 日 時 令和元年7月29日（月）13時30分から14時35分まで
2. 場 所 江川漁業協同組合
3. 出席者 防衛省整備計画局、北関東防衛局ほか
木更津市企画部
4. 参加者 27名
5. 防衛省から説明資料に沿って説明後、以下のとおり質疑応答。

※【○主な質問等】【●防衛省の説明】【※木更津市の説明】

1. 木更津駐屯地への暫定配備期間について

- 暫定配備期間は。木更津駐屯地への暫定配備は決定事項であるのか。
- 陸自オスプレイについては、昨年8月、佐賀県知事から受入れ表明をいただき、現在、佐賀県と有明海漁協において、佐賀空港建設時に締結された公害防止協定で確認されている、『県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えをもっていない』旨の考え方の取扱いについて協議がなされているところである。当該協議の進捗に応じて、施設整備に係る測量や基本検討等を行うことができれば、おおむねの工期が判明すると思われるが、現時点で暫定配備期間をお示しすることは困難である。また、我々は木更津駐屯地へ暫定配備を行わせていただきたい考えではあるが、一方的に配備するつもりはなく、丁寧に地元の説明をさせていただき、ご理解を賜りたいと考えている。
- 反対という立場ではなく、内容に応じて、市や市議会がどのような方針で、例えば暫定配備を容認する方針であるのか。
- ※ 令和元年5月24日に、原田防衛副大臣から市や市議会に対して陸上自衛隊V-22オスプレイの暫定配備要請があったが、現在、市及び市議会は、その要請に協力できるかの回答を保留している。説明会を通じて、皆様からの意見や懸念事項等に対する防衛省の説明や対応について確認し、市としては、市議会と相談しながら慎重に判断していきたく考えている。

2. オスプレイの安全性について

- 羽田空港へ着陸する民航機は低空飛行をしているが、現在、木更津駐屯地に配備されているCH-47も含め、陸自オスプレイが暫定配備された場合、民航機と衝突する可能性や危険性はあるのか。
- 木更津駐屯地と羽田空港の管制は高度等で区切られている。なお、羽田空港の方が離発着回数は多いため、計器飛行は羽田空港の管制に統制されており、その統制なく計器による飛行で自衛隊機は進入できないことから、木更津駐屯地に離発着する自衛隊機は、悪天候時を除いて、その管理された空域の下を、有視界飛行方式を基本として飛行している。

- CH-47が木更津駐屯地へ配備されて間もなくの頃だが、墜落事故が数回発生したものと記憶している。海上で飛行訓練をするとのことだが、我々は干潟でアサリを採貝していることから、事故は非常に困ってしまう。オスプレイは優れた機体であろうが、操縦するのは人間であることから、絶対はありえないので懸念している。
- 自衛隊機が事故を起こしているのは事実であり、それについては申し訳なく思っている。他方、万が一にも事故を起こさないために、日々、陸上自衛隊の操縦士や整備士は入念な作業を行っている。

3. 生活環境への影響について

【騒音】

- CH-47とMV-22オスプレイの騒音比較について、測定場所の選定理由は何か。CH-47のホバリング時、相当な騒音であると聞いたことがあるが、騒音比較をするのであれば、基地周辺で実施すべきではなかったか。
- 防衛省が日米共通整備基盤の受入れを木更津市に対して要請していた2016年に、木更津駐屯地において、米海兵隊MV-22オスプレイと陸上自衛隊CH-47をそれぞれ飛行させた際に測定したものであるが、木更津駐屯地、場周経路付近及び地域住民の生活区域に近い場所を選定し、測定をしたもの。仮に暫定配備となった場合における騒音の影響については、実際に配備された後、影響等を踏まえつつ木更津市と相談して対応していく。

【訓練内容】

- 飛行経路は、東側ではなく、海側の西側場周経路を飛行するのか。
- 海側である西側場周経路を使用することを想定している。

- 夜間飛行訓練時、アサリの番小屋をめぐって飛行をしているように感じる。配慮が足りない。事故が起きてからでは遅い。
- 夜間訓練を行う際は、なるべく上空を飛行して民家から離れるなど、周辺住民に影響を与えないよう努力しているものと承知しているが、自衛隊機が危険な飛行をしているであるとか、そのようなことがあった際は、直接、陸上自衛隊に申し入れていただくか、北関東防衛局の方に連絡していただきたい。木更津駐屯地の運用時間は、平日の8時30分から17時までを基本としているが、災害派遣や有事の場合には、自衛隊として対応しなければならないため、それに備えて夜間訓練を行っているため、その点は御理解いただきたい。